



## ご挨拶

国際ロータリー第2600地区 2016-2017年度

ガバナー <sup>はら</sup>原 <sup>たくお</sup>拓男

1945年1月21日生  
職業分類 清酒製造  
千曲錦酒造株式会社 相談役

[ロータリー歴]  
2004年10月 佐久ロータリークラブ入会  
2013-14年 クラブ副会長  
2014-15年 クラブ会長  
2015-16年 地区資金委員会委員  
青少年育成基金委員会委員  
オンツソウル  
PHF 米山功労者

国際ロータリー第2600地区2016-2017年度のガバナーとしてご挨拶申し上げます。

本年度のRI会長ジョン・フランクリン・ジャーム氏(アメリカ、テネシー州、チャタヌーガRC)は、1月にアメリカ、サンディエゴで行われた国際協議会でテーマを「Rotary Serving Humanity (人類に奉仕するロータリー)」と発表しました。そして、「111年の歴史の中でロータリーは多くの人に多くの意味を持ってきました。会員は、ロータリーを通じて友人と出会い、地域社会と繋がり、目的意識を持ち、人々との絆を育み、キャリアを築き、他では味わえない貴重な経験をしてきました。毎週、世界で34,000以上のクラブのロータリアンが語り、笑い、アイデアを分かち合うために集います。しかし、私たちが集う一番の理由は、最も大切な目標、即ち『奉仕』のためです」と熱く語られました。

会長が掲げる目標の内、会員増強とポリオの撲滅は重要な事項だと思います。まず、何故会員増強が必要なのかについては今更申し上げるまでもありませんが、単純に考えれば、会員が少ないとなかなか物心両面で社会に奉仕できないからだと思われます。しかし、会長は「単にロータリアンの数を増やすことではなく、ロータリーによる善き活動をより多く実現させ、将来ロータリーのリーダーとなれるロータリアンを増やす事、即ち高潔性も必要だ」と述べられました。この問題は地域によっては難しい問題ですが、それだけを理由に避けて通る訳にはいきません。

次に、ポリオ撲滅についてですが、RIのこの大プロジェクトは日本の東京麹町ロータリークラブの山田ツネ会員と峰英二会員が中心になり、2580地区(東京、沖縄)と2750地区(東京、北マリアナ諸島、グアム、ミクロネシア、パラオ)の各クラブにポリオ撲滅運動を提唱し、これが国際ロータリーの運動として発展し、30年以上ポリオと闘い続け、パキスタンとアフガニスタンの二カ国を残すだけになり、あの有名

なフレーズ通りまさしく「あと少し」となりました。しかし、日本のロータリアンがポリオ撲滅運動の開始に深く関わった事は日本国内でも余り知られていません。

さて、今期はロータリー財団設立100周年の記念すべき年です。ポリオは日本には存在しなくなりましたが、世界のポリオ撲滅にはまだまだ多額のお金が必要です。この記念すべき年に日本人が提唱したポリオ撲滅に向かって財団への寄付を増やし、「人類に奉仕するロータリー」のテーマを実践しようではありませんか。

このRIテーマを実践するための2600地区の標語ですが、現在の社会は日々様々な変化、発展をしていますので、ロータリーにおいてもこの変化を無視する訳にはいきません。伝統を継承すると共に、より良い奉仕のための新しい考え方の採用や、またICT関連のような新しい事も取り入れて行かなければなりません。

そこで地区の標語を「Basic and New」といたしました。そして、私たちがロータリーを通じて学んだ多くの事の中で、最も大切ながら最もシンプルな事、それはロータリー全体の発展を望むなら全員が同じ方向に進まなければならないと言うことです。全員が同じ方向に進み「We Serve」すれば、次は「I Serve」に発展していくと思います。また「四つのテスト」はそれぞれ重要な事ですが、私は三番目の「好意と友情を深めるか」を一番大切にしています。友情を深めクラブ内に融和がなければ同じ方向に進む事は出来ません。その意味で地区行動指針を「長所を認め合い絆を深めよう」といたします。第2600地区2,000名のロータリアンが絆を深め同じ方向に進む時のパワーは、まさに「人類に奉仕するロータリー」となるでしょう。

会員の皆様のご理解とご協力を宜しくお願い致します。